

今年度はアンケート法により広島県の野生ニホンザルの群れ（10頭以上の集団）、小集団（2～9頭の集団）とソリタリーの分布についての調査をした。また島根県および山口県で、アンケート法による調査の検討と群れ数の把握の試みおよび絶滅群の絶滅経過の調査をしてきた。結果および今後の調査要点は次の通りである。

アンケートの結果：広島県の群れ集中地域は、県の西端の佐伯郡、広島市の北側の高田郡と東端ノ神石郡から福山市の北にかけての3ヶ所であった。山口県と島根県の調査結果と同じく広島県においても、小集団およびソリタリーの分布は群れ集中地域外にも広がっていた。

アンケートの検討：島根県邑智郡は20年ほど前から猿害に悩まされてきた。対策として、サルの実態を把握するために、分布や頭数の調査が町村単位で行われてきた。したがって、昨年度のアンケートでは、詳細な回答があった。

群れ数の把握の試み：高校生を中心に昨年から引き続き山口県玖珂郡周辺を調査した。そこに、メスだけの安定したグループが生息していることが分かった。このグループは警戒心が強く、困難な追跡ではあるが継続調査をしている。

絶滅群：広島県では各所で、サルの群れが絶滅または絶滅寸前の状態にある。原因はいずれも捕獲によっていた。例えば、三原市周辺の数群が捕獲により絶滅した。

まとめ：群れ集中地域での群れ数を特定するために、聞き込み調査を試みたが、幾つかの問題があり、今後、一群一群を、テレメーター法等により現地調査することにした。

山口県、島根県と広島県の3県にかけておよそ3000km²の広域な群れ集中地域があった。

広島県内の群れ絶滅は最近のことであり、今ならば捕獲を実施した組織に群れの記録が残っているはずである。この記録の収拾をしたい。

計画1-5：

丹後・丹波高原の野生ニホンザルの分布、ならびに複数群が集中的に分布する地域における群間関係の研究

伊谷原一・黒田末寿・

高畑由起夫・西原智昭（京都大・理）

早木仁成（神戸学院大）

本調査では、京都府丹波・丹後高原の宮津、峰

山、舞鶴、綾部、福知山、園部、京北の各地方において、野生ニホンザル群の分布状況について聞き込み、および直接観察をおこなった。以下に、各地方における野生群の分布域と推定個体数を記す。

宮津：伊根町の権現山を中心に経ヶ岬から蒲入までの海岸道路沿いを遊動する約30頭の群れと、本庄浜から新井までの海岸沿いから西側の内陸部を遊動する25～30頭の群れが確認された。この他に、太鼓山周辺を遊動する30頭前後の群れが1つ分布するらしいが、先の2群との異同は未確認である。

峰山：丹後町の権現山西側の上山で1群確認されたが、これは伊根町の経ヶ岬周辺を遊動する群れと同群と思われる。また、同町の他地域から得られた聞き込み情報は、すべてがヒトリザルであった。

舞鶴：成生地区を中心に40～50頭、水ヶ浦を中心に約50頭の2群が隣接して分布する。また、西大浦から佐波賀にかけて30～40頭、朝来周辺に40～50頭、三国岳西側の多門院から与保呂にかけて40～50頭の計3群が分布する。

綾部：この地方の分布状況の詳細については不明な部分が多いが、故屋岡町を中心に南北12km、東西12kmの範囲に4群、約200頭が生息する。

福知山：烏ヶ岳を中心に遊動する25～30頭の群れが1つ確認された。烏帽子山の北側に1群分布するという情報があるが、未確認である。

園部：和知町・長老ヶ岳の西側を中心に遊動する45～50頭の群れが確認された。また聞き込み情報によると、隣接する日吉町の畑郷周辺と瑞穂町の兜山から西山周辺にかけて、それぞれ30～40頭と30頭前後の群れが1つづつある。

京北：京北町、および美山町では、1～4頭で遊動しているサルが頻繁に観察されたが、大きな群れは確認できなかった。また、聞き込み情報では、美山町の知見周辺と大野周辺にそれぞれ30頭前後の群れが1群づつ、美山鉾山の周辺に約20頭の群れが1つ分布するとのことである。

計画1-6：

近畿圏におけるニホンザルの分布の実態調査
—その2

清水聡・武田庄平・金澤忠博

（大阪大・人間科学）

近畿圏におけるニホンザル分布の実態調査の2年目として、本年度は兵庫県を中心として分布状況の調査を行った。

調査質問紙を県下各市役所、町・村役場（91市町村）に送付し回答してもらったところ、回収率は約75%であった。1978年の環境庁の「緑の国勢調査」の調査報告では、1）篠山町から京都府境にかけての多紀連山、2）神崎郡大河内町付近、3）佐用郡南光町、4）美方郡美方町、5）洲本市灘の5地域で集団の生息が確認されたと報告されているが、今回の回答結果からも概ね同様の地域で集団の生息が確認された。これに対して、今回の調査結果では豊岡市、城崎町、竹野町、日高町などの但馬北部に集団の生息が確認され、1978年の調査結果で確認されなかった地域で集団の生息が確認された。この地域の集団は、近年になって姿を現し農作物に被害を及ぼすようになったようである。元々近くの山に生息していた集団が植林の影響で農地へ出てきたのではないかと報告もあった。このように、但馬地方においては集団数および分布域が以前より拡大している可能性が考えられるが、集団数、個体数あるいは遊動域等の細かい点についてはよく分かっていないのが現状であり、結論を出す前に詳細な調査が必要であると思われる。

また、これら集団の生息地の間で、集団ではないがハナレザルなどの存在が確認された地域が多くあった。1978年の調査結果と比較して確認された地域は増えているものと思われる。集団の生息ではないが、集団間の個体の移動を実証する資料として興味深い。

来年度は、特に但馬地方を中心として調査を行い、兵庫県下におけるより精度の高い分布状況を明らかにしたい。

計画1-7:

伊豆・箱根地域のニホンザルの分布と個体数

岡野美佐夫・宮本大右・濱崎伸一郎
(野生動物保護管理事務所)

伊豆・箱根地域のニホンザルの分布と個体数を調べるため、郵送アンケート調査、聞き取り調査、カウント調査を実施した。

箱根地域については昭和30年代から分布に関するデータが蓄積されているため、アンケート調査

は省略し聞き取り調査で分布変化の把握に努めた。その結果を動物分布調査（環境庁1978年）の分布メッシュ図と比較すると、群れの生息区画数が10から9に減少し、群れ以外の生息区画数が1から2に増加しただけで区画数に大きな変化は認められなかったものの'78年調査で生息が確認されていなかった箱根地域北部（小田原市北西部、南足柄市南部）への分布拡大が認められた。また、1986年に神奈川県が実施した調査では5群（S、H、T、P1、P2）の生息が確認されていたが、このうち箱根町の畑宿に定着していたとされるP2群は聞き取り調査で確認されず、移動ないし消滅したものと判断された。平成2年の9月に実施したカウント調査の結果は、S群が55頭、P1群が21頭であり、'86年調査の結果と比較すると2つの群れとも漸増している。この他、聞き取りによりH群と思われる群れが約50頭いるとの情報を得たが、T群の個体数については情報が得られず、箱根地域全体のニホンザルの個体数の変化に関しては、今後も調査を継続していかなければわからない。

伊豆地域に関しては郵送アンケート調査とこれを補足する聞き取り調査を実施した。アンケートは農協の各支所と鳥獣保護員を対象に191通を配布し、回答率は60.7%（116通）であった。その結果群れの生息を確認した地域は、愛鷹山東部から南部にかけての地域（裾野市、長泉町、沼津市）、箱根地域に隣接した熱海市北部および函南町北東部地域、天城山脈より南の伊豆半島南部地域（東伊豆町、河津町、下田市、南伊豆町、松崎町にまたがる地域）の3地域に分かれた。'78年の分布調査（環境庁）と比較すると群れの生息区画数は42から32に減少し、群れ以外の生息区画数は15から26に増加した。実際に群れの分布が縮小したかについては、さらに聞き取り調査を実施し検討する必要がある。また、群れサイズに関しては、平成3年度の共同利用研究で調査する予定である。

計画1-8:

鈴鹿山系におけるニホンザルの分布

増井憲一（森林生態研究会）

鈴鹿山系において1975年以来ニホンザルの分布と生息状況に関する資料の収集を断続的に行っているが、1990年7月中旬に1週間、本共同利用